

ソプラノとパイプオルガンによる 夕の祈り

Ein Abendgebet - Recital durch Sopran und Orgel

岡真里子 (ソプラノ) 吉田文 (パイプオルガン)

Program

ダリウス・ミヨー :
「5つの祈り」 op.231c

ヨハネス・ドリースラー :
ソプラノとオルガンの為の「宗教的協奏曲作品47」(1960) より

トーマス・マイヤー＝フィービッヒ :
ソプラノとオルガンの為の3つの小宗教的協奏作品 (2022)
【委嘱作品、世界初演】

溝上日出夫 :
《雲中供養菩薩》 楽 (オルガンソロ)

三ッ石潤司 :
「祈り-2016」 (ソプラノ、オルガン、打楽器版)
他

2023 11/13 [月]

18:45 開演(18:00 開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール

ソプラノ：岡真里子

パイプオルガン：吉田文

打楽器：佐久間真理

入場料 3000 円

【チケット取り扱い】

二宮音楽事務所 052-505-0151

チケットぴあ Pコード：248 - 125

【マネージメント・お問い合わせ】

二宮音楽事務所 052-505-0151



リサイタルによせて

「ソプラノとパイプオルガンによる夕の祈り」は、パイプオルガンによる荘厳な音、幾重にも織りなす響きに、声、言葉を載せた祈りの場となります。

プログラムに先立って導入として演奏される Abendstern（夕暮れの星）では、stille Pracht＝静寂の神秘的な力に包まれ、魂が天への憧憬に満たされていきます。それは永遠の帰郷の場であることを示しています。

プログラム前半第一曲となるミヨーの「5つの祈り」では、神が人となって生まれた降誕による受肉の神秘が賛美されます。2人の現代邦人作曲家、花村光浩と溝上日出夫が「祈り」をテーマにパイプオルガンの響きを使って描写した作品を織り交ぜ、ドイツ、フランス、東洋の多様な世界観とその融合を描き出しています。

戦後ドイツでオラトリオ「Dein Reich komme（御国の来たらんことを）」が爆発的な人気を博した作曲家ドリースラーの作品も取り上げ、その系譜を継ぐトーマス・マイヤー＝フィービヒの作品に繋いでいきます。また今回はマイヤー＝フィービヒのオルガンソナタ 1968 (1968/2022)【世界初演】、声楽とオルガンの為の3つの小宗教的協奏作品 (2022/23)【委嘱作品、世界初演】を取り上げます。三ッ石潤司の作品「祈りー 2016」は東京混声合唱団の為に書かれた2017年の委嘱作品で、本公演の為にソプラノとパイプオルガン、打楽器版に編曲されました。作品は、レクイエムの典礼文、日本国憲法第9条冒頭の英訳、そして聖母マリアへの祈り Salve Regina（サルヴェ・レジーナ、元后あわれみの母）で構成され、このリサイタルで紡がれる「今ここに生きる私たちの祈り」と「希望と信頼のメッセージ」が集約されています。

本公演「夕の祈り」はカトリック教会の就寝前の聖務日課（終課 Complet）で祈られる "Salve Regina"（ミヨー）に始まり、"Salve Regina"（三ッ石）で完結します。声とパイプオルガンによる祈りの場を、その響きと共に共有できれば幸いです。

岡真里子 (Mariko Oka) ソプラノ



ウィーン国立音楽大学大学院リート・オラトリオ科を教授全員一致にて修了。ディプロム、オーストリア演奏家資格を得る。リート・オラトリオをローマン・オルトナー氏に、発声をスーザン・デニス・ガブリエル氏に師事。第3回新人音楽コンクール声楽部門第2位（KBC/朝日新聞社主催）。在ウィーン中、教会でのミサ等ソリストを多く務める。またアンサンブル、ジョイントコンサート等コンサートに出演。1990年にウィーンバーゼンドルフアーザールにて三ッ石潤司氏とリサイタルを開催し高評を博す。以降「ドイツリート夕べ」「ヴォルフ/メーリケ夕べ」等のリーダー・アーベントを意欲的に行った。帰国後、愛媛大学教育学部、聖カタリナ短期大学音楽学部、名古屋女子大学非常勤講師、NHK文化センター松山などで講座の講師を務める。バッハの〈結婚カンタータ〉〈コーヒーカンタータ〉その他多数のカンタータ〈クリスマス・オラトリオ〉〈ヨハネ受難曲〉〈ロ短調ミサ〉、ベルゴレージ〈スタバート・マーテル〉、モーツァルト〈レクイエム〉（レヴィン版、日本初演）、〈孤児院ミサ〉ハイドン〈小オルガンミサ〉、R.シュトラウス〈4つの最後の歌〉、G.マーラー〈交響曲第4番〉等ソリストを多く務める。近年は東京にてゼンガーフェライン主催のコンサートにも出演。

愛媛新聞創立120周年記念コンサート、名古屋市博物館創立20周年記念「ウィーンと歴史展」特別コンサート、「0歳まえのコンサート」をはじめソロ、ジョイント等コンサートに多く出演。オペラではモーツァルト〈フィガロの結婚〉伯爵夫人役を演じる。現在、愛知芸術文化協会会員、名古屋女子大学文学部教授。

吉田文 (Aya Yoshida) パイプオルガン



名古屋生まれ。中学卒業と同時に単身渡独。ケルン国立音楽大学カトリック教会音楽科、並びにパイプオルガン科を卒業後、国家演奏家資格課程（パイプオルガン）を修了。A級カトリック教会音楽家ドイツ国家資格及びドイツ国家演奏家資格取得。ベルリン・コンツェルトハウスをはじめとするヨーロッパ各地における演奏会・フェスティバルから多数招聘を受け、定期的にドイツを中心としたヨーロッパでコンサート活動を行なっている。オーケストラ、合唱、諸編成アンサンブルのパートナーとしても定評を受けている他、現代舞踊など異文化とのコラボレーションにも力を入れている。平成27年度名古屋市民芸術祭特別賞受賞。令和3年度名古屋市民芸術奨励賞受賞。名古屋音楽大学非常勤講師（パイプオルガン）、南山大学非常勤講師（教会音楽）。朝日カルチャーセンター、南山大学エクステンションカレッジ講師。「名古屋オルガンの秋」主宰。

佐久間真理 (Mari Sakuma) 打楽器



京都市立芸術大学音楽学部管打楽専修卒、同大学院音楽研究科打楽器専攻修了。

ジャンルを越えたパーカッショニストとして指名を受け、プロオーケストラや室内楽の各種演奏会、作曲家個展、CD録音やイベント等に多数出演し、その躍動感あふれる演奏スタイルには定評がある。また、打楽器アンサンブル「マリンバアート」として、「奏者と聴衆が一体となって楽しめるコンサートを」を合言葉に、様々なアイディアを盛り込んだ打楽器音楽を発信し続けている。学校公演やホール主催公演等も好評で、音擬話「ももたろう」はロングランとなっている。2006年より、プロアマ問わず60余名の打楽器奏者が結集する「打フェスタwithマリンバアート」を連続開催中。「レクチャー&コンサート」もシリーズ化している。打楽器2人とピアノによるアンサンブル「コラボックル」では、「3人とは思えない驚きのサウンド」を目指して活動している。マリンバアートとして平成24年度、コラボックルとして令和3年度に愛銀教育文化財団助成受贈。

かりやプラスプロジェクト講師、同朋大学、愛知東邦大学、名古屋文化学園保育専門学校、各非常勤講師。